

---

# 日本人はなぜディベートが下手なのか？

しんどうみずき

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

日本人はなぜダイベートが下手なのか？

### 【Nコード】

N2713L

### 【作者名】

しんどうみずき

### 【あらすじ】

下手です。

おそろしいくらいに。

いましたがた、NHKの「日本の、これから」という番組を見ていて泣きたくなつた。

この番組の趣旨は「草食系の若者が増えているなか、日本はどうなつていくのか」という議題について様々な立場から集められた人たちが議論を繰り広げる　というものだったのだが、これがあまりにもお粗末すぎたのだ。

私は番組を責める気はない。

議論自体は面白かつたし、若者と中年、団塊世代が互いの意見を述べているのも興味深かつた。はつきり言って、悪くはない出来だつた。

私が嘆いているのは日本の将来などではなく、喋っている人たちの態度だつたり、内容だつたりなのだ。

私とて一介の高校生であるからディベートのなんたるかを詳しく説明できるほど慣れてはいるわけではないが、拙いながらも批判を行いたいと思う。

最初に断つておこう。タイトルに「日本人」などつけてしまつたが、ひよつとしたら世界共通の問題点をあげている可能性もある。なにもイギリス人やアメリカ人が完全無欠なディベーターであるはずはないから、彼らにも問題点はあるのだ。とにかく、私のわかる範囲で持論を述べたいと思う。

まず感じたのが、態度の悪さだ。

たぶん一番大切なこと。相手を敬い、尊重するということができていないのだ。

わかりやすい例をあげると、例の仕分け議員だろうか。相手の話を

最後まで聞かない、自分の意見ばかりを一方的に押し付けるとい  
のは言語道断だ。

ディベートに唯一ルールがあるとすれば相手を尊重することである  
はずなのに、彼らはそれを完璧に忘れてしまっている。いや、気づ  
いてないとさえいえるかもしれない。それほどまでに 見ていて  
反吐が出るほどに ひどいのだ。

年上から年下に意見を述べるとき、ここで目下の者を軽視するとい  
う日本の悪い風潮がにじみ出ている。

「理由を言え」「言い訳するな」のコンビ的なものだ。話を聞く気  
が最初からないのだ。番組を見ていても、他のゲストの話はうなず  
いて聞いているのに、相手が若者となると一気に攻撃的になり、話  
を遮り、説教を垂れようとする。

自分のほうが長く生きているんだから、自分の言うことが正しい。  
そんな思惑が見え見えだ。端的に表現すると、これも一種の差別だ  
ろうと思う。個人的に叱っているのならまだいいが、公的な場所で  
そんな風潮が許されていいはずがない。

反対に若者から年上に話するとき、ここにもどうせわかってもらえな  
いだろうという気持ちが出てしまっている。これは半分ほど相手側  
に問題がある。自分の意見を受け入れてもらえないのなら、どうで  
もいいやと投げやりになってしまふのは仕方ない。それでも説明の  
責任を放棄するのは反則だ。あつていいことじゃない。

次に、話の要点が見えないことだ。

このエッセイも要点を得なくて大変申し訳ないが なんてことを  
書いているとややこしくなる。本題が見えにくい。つまり話が長い。  
一つの要素を一つの文に込めるとというのが基本だろう。それを二つ  
も三つもいれてしまふのだ。だから反論したいポイントがあつたと  
しても、メモでも取っていない限りそれをすぐに指摘することがで  
きないのだ。(まあ、無理やり遮って言いたいことを言う人もいる

が)

何を言いたいのかわからない。

やたら比喻とか、自分の話とかを巻き込むことも面白い。「私は子供が2人いるんですけどね……」とか「たとえば、なんとかがあるとするじゃないですか……」みたいなやつだ。これはたいがい失敗する。

たしかにうまく使えば効果的な手法だろう。ただこれにはセンスがいる。即興で誰にでもわかりやすいたとえをできる人はそういない。それなのに自己満足でやたらと使いたがるから、話が脱線し本質が見えにくくなってしまふのだ。

これはだれにでもある傾向だ。

ただ、総じて話の長い人はわかりにくい。日本語がディベートに向いていないという原因はここにある。回りくどいのだ。

そして三つめ。

自己分析が甘い。

自分の人生についてそれが己の行動による結果なのか、それとも時代に乗っかっただけの産物であるのか、その区別ができていない。これはいささか難しいことかもしれない。

成功した人ならば誰しも努力によってその地位を得たと思いたいだろうし、没落した人ならばそれを時代のせいにしたがるだろうから人間臭くて私は好きなのだが、それとディベートは別物である。あくまで客観的に、クールであらねばならない。

認めたくないけど認められる力。これはディベートにおいてとても重要なことだ。相手を認められないと、ディベートに終わりはないからだ。ただ自分のをうつつぶんを適当にぶちまけて周囲を不快にさせるだけになってしまう。これじゃ意味がない。

たしかに経験は大事な根拠となる。ただそれは大いに主観的なものだ。そこを理解してほしい。

上記の三つは、改善してほしい順に並べてある。

フェアであること、シンプルであること、クールであること。

細かい技術はともかくとして、とりあえずこれらの点を修正できれば少なくとも聞いていてイライラして仕方ないということにはならない。

これらはもちろん経験の有無も関わるだろうが、気持ちの持ちようだけでいぶ変わるものだ。せめて社会に出ている大人として、これくらいは守ってもらいたい。もちろん私たち未成年も上手にディベートを進められるよう、頑張らなければいけない。

(後書き)

ご意見などありましたら、書き込んでくださると幸いです。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2713/>

---

日本人はなぜディベートが下手なのか？

2010年10月9日00時47分発行